

本メルマガは、当社「日税フォーラム」「日税オンデマンド」でもご活躍いただいている(株)事業パートナーの代表取締役社長松本 光輝先生に 300 社を超える会社の再生の成功体験をもとに金融機関交渉に関してQ&A形式でまとめて頂きました。この情報が関与先様へのアドバイスの一助となれば幸いです。

『現状の会社の状況』

家族で洋装店を父の代から40年営んでいる。形態は個人事業。最近ずっと赤字が続いている。自分も高齢になったので廃業したい。

息子は、洋装店をやめて飲食店を開業したいと言っている。

銀行からの借入残が3,000万円ほど残っている。一階がお店で二階が自宅となっている。その不動産には担保が付いている。

『質問内容』

洋装店を廃業して息子の言うように飲食店を開業するとしたら、銀行にどのように言えば良いのか？

《アドバイス》

- ①洋装店の廃業と飲食店の開業は別々に考えなければならない。
- ②自宅兼店舗の不動産価値がいくらなのかを調べる。その価値額と銀行からの借入残の3,000万円とを比較する。

<例>

- ・自宅兼店舗の不動産価値： 8,000万円
- ・銀行の借入残額： 3,000万円
- ・飲食店の開業資金借入可能額： $(8,000万円 \times 70\%) - 3,000万円 = 2,600万円$

- ③現在の銀行借入残額3,000万円と飲食店開業借入資金2,600万円の合計5,600万円を5年で返済が可能か否か。支払い利息も含めると極めて難しい。
- ④現在の借入残の3,000万円は10年間の返済で銀行に交渉する。可能ならば20年間の交渉。これならば、自宅を失わず年金の範囲内での返済も可能。また、一階店舗を賃貸する方法もある。
- ⑤飲食店は自己資金の範囲で計画すべし。
- ⑥まずは、高齢者夫婦が安心して生活できる状況を作ることが大事です。

〈著者プロフィール〉

松本 光輝 氏

株式会社事業パートナー 代表取締役。40年にわたり、飲食業を中心に会社経営。バブル崩壊時に25億円の負債を抱え、その後3年半でその負債を解消する。2003年より、事業再生請負人として全国行脚中。この間、依頼先の多くが1～2ヶ月以内に、資金ショートに陥るおそれがあるという危機的状況の中から、1社も倒産させることなく、300社を優に越える会社の再生を成功させる。◎過去の経験を活かして、中小企業経営者の最高の相談者となるべく、活動を続けている。◎経営者はもとより、幹部社員の皆様・社員の皆様の声をくみ上げ、共に全社一丸となった再生を達成すべく、全力で取り組んでいる。着手後、30日以内に再生計画を作成して、実行に移している。◎会社を3年かけて再生させる独自の再生術は、他に類を見ません。

■■■■■ 著作権 など ■■■■■

著作権者の承諾なしにコンテンツを複製、他の電子メディアや印刷物などに再利用(転用)することは、著作権法に触れる行為となります。また、メールマガジンにより専門的アドバイスまたはサービスを提供するものではありません。貴社の事業に影響を及ぼす可能性のある一切の決定または行為を行う前に必ず資格のある専門家のアドバイスを受ける必要があります。メールマガジンにより依拠することによりメールマガジンをお読み頂いている方々が被った損失について一切責任を負わないものとします。